

3023

神の知恵の支配

伝道者の書

1 エルサレムでの王、ダビデの子、伝道者のことは。

空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。日の下で、どんなに勞苦しても、それが人に何の益にならう。

10 一つの時代は去り、次の時代が来る。しかし地はいつまでも変わらな。日は上り、日は沈み。またもの上る所に帰って行く。風は南に吹き、巡って北に吹く。巡り巡って風は吹く。しかし、その巡る道に風は帰る。川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れ込む所に、また流れる。すべての事はものうい。人は語ることをさえてきない。日は見て飽きることもなく、耳は聞いて満ち足りることもない。昔あったものは、これからもあり、昔起こったことは、これからも起こる。日の下には新しいものは一つもない。

37:42. 37の答え

37:38. 支配 38:36.37 知恵

hebel - Abel
ヘベル、アベル
アベルも救者。

・ 変わらな
・ 限りがな

3024

風を巡らう。 ことば → 風

8 空の空。伝道者は言う。すべては空。9 伝道者は知恵ある者であったが、そのうえ、知識を民に教えた。彼は思索し、探求し、多くの箴言をまとめた。10 伝道者は適切なことばを見いだそうとし、真理のことばを正しく書き残した。11 知恵ある者のことばは突き棒のようなもの、編集されたものはよく打ちつけられた釘のようなものである。これらはひとりの羊飼いによって与えられた。12 わが子よ。これ以外のことに注意せよ。多くの本を作ることは、限りがな。多くのものに熱中すると、からだが疲れる。13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。14 神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばられるからだ。

12

- 1. 勞苦は利益に等らな。 1:3, 2:11, 3:9, 5:9, 5:16
- 12. 知恵は利益に等らな。 2:13, 7:12, 10:10

- 29 ヲロモン
- 31 食ひ、食ひ
- 33 國と毒とオーにばぬみ
- 34 勞苦は十分 (愚)

・ 也つとふりに等らな
・ いつとふりに等らな。 可べては神の知恵、可べては神の時が子
ちりに等らな。息はあが子。
王である人間は、可と可べてが。

知恵にお手紙の手帳がほしい

自分手帳もほしい

快樂はほしい

知恵を求めて

すべてをわきまを見たい

快樂を求めた

富を求めた

知恵を求めて

知恵を求めた

①

12 伝道者である私は、エルサレムでイスラエルの王であった。

13 私は、天の下で行なわれるいっさいの事について、知恵を用いて、一心に尋ね、探り出そうとした。これは、人の子らが勞苦するようにと神が与えたつらい仕事だ。

14 私は、日の下で行なわれたすべてのわざを見たが、なんと、すべてがむなしなことよ。風を追うようなものだ。

15 曲がっているものを、まっすぐにはできない。なくなっているものを、数えることはできない。

16 私は自分の心にこう語って言った。「今や、私は、私より先にエルサレムにいただれよりも知恵を増し加えた。私の心は多くの知恵と知識を得た。」

17 私は、一心に知恵と知識を、狂気と愚かさを知ろうとした。それもまた風を追うようなものであることを知った。

18 実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識を増す者は悲しみを増す。

2 私は心の中で言った。「さあ、快樂を味わってみるがよい。楽しんでみるがよい。」しかし、これもまた、なんとむなしなことか。

3 私は心の中で、私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけようと考えた。人の子が短い一生の間、天の下ですることについて、何が良いかを見るまでは、愚かさを身につけていようと考えた。

4 私は事業を拡張し、邸宅を建て、ぶどう畑を設け、庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。

5 木の茂った森を潤すために池も造った。

7 私は男女の奴隷を得た。私には家で生まれた奴隷があつた。私には、私より先にエルサレムにいただれよりも多くの牛や羊もあつた。

8 私はまた、銀や金、それに王たちや諸州の宝も集めた。私は男女の歌うたいをつくり、人の子らの快樂である多くのそばめを手に入れた。

9 私は、私より先にエルサレムにいただれよりも偉大な者となつた。しかも、私の知恵は私から離れなかつた。

10 私は、私の目の欲するものは何でも拒まず、心のおもむくままに、あらゆる楽しみをした。実に私の心はどんな勞苦をも喜んだ。これが、私のすべての勞苦による私の受ける分であつた。

11 しかし、私手がけたあらゆる事業と、そのために私が骨折った勞苦とを振り返ってみると、なんと、すべてがむなしなことよ。風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。

勞苦に満足することのみ

勞苦に溢れ、善の結末

勞苦に對して、善に行き、後継者に到り

勞苦を後継者に到り

知恵の結末

知恵者も愚者も同じ結末

②

12 私は振り返つて、知恵と、狂気と、愚かさとを見た。いったい、王の跡を継ぐ者も、すでになされた事をするのにすぎないではないか。

13 私は見た。光がやみにまさっているように、知恵は愚かさにまさっていることを。

14 知恵ある者は、その頭に目があるが、愚かな者はやみの中を歩く。しかし、みな、同じ結末に行き着くことを私は知つた。

15 私は心の中で言った。「私も愚かな者と同じ結末に行き着くのなら、それでは私の知恵は私に何の益になるうか。」私は心の中で語つた。「これもまたむなしこと。

16 事実、知恵ある者も愚かな者も、いつまでも記憶されることはない。日がたつと、いっさいは忘れられてしまふ。知恵ある者も愚かな者とともに死んでいなくなる。

17 私は生きていることを憎んだ。日の下で行なわれるわざは、私にとってわさわわいだ。すべてはむなし、風を追うようなものだから。

18 私は、日の下で骨折つた。いっさいの勞苦を憎んだ。後継者のために残さなければならぬからである。

19 後継者が知恵ある者か愚かな者か、だれにわかつても、何の勞苦もしなかつた者に、自分の分け前を譲らなければならぬ。これもまた、むなし、非常に悪いことだ。

20 私は日の下で骨折つた。いっさいの勞苦を思い返して絶望した。

21 どんなに人が知恵と知識と才能をもつて勞苦しても、何の勞苦もしなかつた者に、自分の分け前を譲らなければならぬ。これもまた、むなし、非常に悪いことだ。

22 実に、日の下で骨折つた。いっさいの勞苦と思ひ煩いは、人に何になるうか。

23 その一生は悲しみであり、その仕事には悩みがあり、その心は夜も休まらない。これもまた、むなし。

24 人には、食べたり飲んだりし、自分の勞苦に満足を見いだすよりほかに、何も良いことがない。これもまた、神の御手によることがわかつた。

25 実に、神から離れて、だれが食べ、だれが楽しむことができようか。

26 なぜなら、神は、みごころにかなう人には、知恵と知識と喜びを与え、罪人には、神のみごころにかなう者に渡すために、集め、たくわえる仕事を与えられる。これもまた、むなし、風を追うようなものだ。

勞苦しても、心にも同じ結末

知恵にお手紙の手帳がほしい、勞苦の結末

勞苦の結末

勞苦がむなし

知恵があつても愚者も同じ結末

わざの時がある (神のわざの時がある)

3:16
8:6

時

3 天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。

2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある。

1 殺すのに時があり、いやすのに時がある。くずすのに時があり、建てるのに時がある。泣くのに時があり、ほほえむのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。

5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。

6 抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。

7 抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。

8 抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。

9 働く者は労苦して何の益を得よう。

10 私は神が人の子らに与えて労苦させる仕事を見た。

11 神のなさることは、すべて時にならぬ美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。

12 私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか何も良いことがないのを。

13 また、人がみな、食べたり飲んだりし、すべての労苦の中にしあわせを見いだすこともまた神の賜物であることを。

14 私は知った。神のなさることはみな永遠に変わらないことを。それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。神がこのことをされたのだ。人は神を恐れなければならぬ。

15 今あることは、すでにあったこと。これからあることも、すでにあったこと。神は、すでに追い求められたことをこれからも捜し求められる。

神の時

神のわざは変わらない。すべては神のわざである。

8:17 神の時がある

みわざの時

さばきが同じ 3:1, 8:6

16 さらに私は日の下で、さばきの場に不正があり、正義の場に不正があるのを見た。

17 私は心の中で言った。「神は正しい人も悪者もさばく。そこでは、すべての営みと、すべてのわざには、時があるからだ。」

18 私は心の中で人の子らについて言った。「神は彼らを試み、彼らが獣にすぎないことを、彼らが気づくようにされたのだ。」

19 人の子の結末と獣の結末とは同じ結末だ。これも死ねば、あれも死ぬ。両方とも同じ息を持っている。人は何も獣にまさっていない。すべてはむなししいからだ。

20 みな同じ所に行く。すべてのものはちりから出て、すべてのものはちりに帰る。

21 だが知っているだろうか。人の子らの霊は上に上り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。

22 私は見た。人は、自分の仕事を樂しむよりほかに、何も良いことがないことを。それが人の受ける分であるからだ。だが、これから後に起こることを人に見せてくれるだろう。

4

1 私は再び、日の下で行なわれるいっさいのしいたげを見た。見よ、しいたげる者が権力をふるう。しかし、彼らには慰める者がいない。

2 私は、まだいのちがあつて生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人のほうに祝いを申し述べる。

3 また、この兩者よりもっと良いのは、今までに存在しなかつた者、日の下で行なわれる悪いわざを見なかつた者だ。

4 私はまた、あらゆる労苦とあらゆる仕事の成功を見た。それは人間同士のねたみにすぎない。これもまた、むなししく、風を追うようなものだ。

5 思かな者は、手をこまねいて、自分の肉を食べる。片手に安楽を満たすことは、

6 両手に労苦を満たして風を追うのにまさる。

さばきが反対

支配しても支配されるも同じ結末

さばきの時がある

12:7

2:14-
9:2-

人も獣も同じ結末。一死。一正しい悪いさばき

富を我女子の勞苦に報りがまし。

良い王を我女子の民に報りがまし。ひとりの勞苦ひとりは良し。

勞苦が報りがまし。

7 私は再び、日の下にむなしさのあるのを見た。ひとりぼっちで、仲間もなく、子も兄弟もない人がいる。それでも彼のいつさいの勞苦には終わりがなく、彼の目は富を求めて飽き足ることがない。そして、私はだれのために勞苦し、楽しみもなくして自分を犠牲にしているのか。とも言わない。これもまた、むなしく、つらい仕事だ。

9 ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが勞苦すれば、良い報いがあるからだ。

10 どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起す。倒れても起す者のいないひとりぼっちの人はかわいそりだ。

11 また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなろう。

12 もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ摺りの糸は簡単には切れない。

13 貧しくても知恵のある若者は、もう忠言を受けつけない年とつた愚かな王にまさる。

14 たとい、彼が牢獄から出て来て王になったにしても、たとい、彼が王国で貧しく生まれた者であったにしても、

15 私は、日の下に生息するすべての生きものが、王に代わって立つ後継の若者の側につくのを見た。

16 すべての民には果てしがない。彼が今あるすべての民の先頭に立つても、これから後の者たちは、彼を喜ばないであろう。これもまた、むなしく、風を追うようなものだ。

5

1 神の宮へ行くときは、自分の足に氣をつけよ。近寄って聞くことは、愚かな者がいけにえをささげるのにまさる。彼らは自分たちが悪を行なっていることを知らないからだ。

2 神の前では、軽々しく、心あせてことは出さな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことを少なくせよ。

3 仕事が多いと夢を見る。

4 ことばが多いと愚かな者の声となる。

5 神に誓願を立てるときには、それを果たすのを選んではならない。神は愚かな者を喜ばないからだ。誓ったことは果たせ。

6 誓って果たさないよりは、誓わないほうがよい。

7 あなたの口が、あなたに罪を犯させないようにせよ。使者の前で「あれは過失だ。」と言ってはならない。神が、あなたの言うことを聞いて怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてもよいだろうか。

8 夢が多くなると、むなししいことばも多くなる。

9 ただ、神を恐れよ。

神はご存知。

富を愛して満たされし。

伝道者の書 権力を欲してもさらに上がい。富に満たされし。

長く肉いて、誓い果せ。

愚者のことばはむなし。愚者の知恵、ささげものばむなし。

ある州で、貧しい者がしいたげられ、権利と正義がかすめられるのを見ても、そのことに驚いてはならない。その上役には、それを見張るもうひとりの上役がおり、彼らよりもっと高い者たちもいる。

9 何にもまして、国の利益は農地を耕させる王である。

10 金錢を愛する者は金錢に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた、むなししい。

11 財産がふえると、寄食者もふえる。持ち主にとって何の益にならう。彼はそれを目で見るだけだ。

12 働く者は、少し食べても多く食べても、こころよく眠る。富む者は、満腹しても、安眠をとどめられる。

長生きして、財宝を満たされし。

1 私はいくつもの悪があるのを見た。それは人の上に重くのかかっている。

2 神が富と財宝と譽れとを与え、彼の望むもので何一つ欠けたものがない人がいる。しかし、神は、この人がそれを樂しむことを許さず、外国人がそれを樂しむようにされる。これはむなししいことで、それは悪い病だ。

3 もし人が百人の子どもを持ち、多くの年月を生き、彼の年が多くなっても、彼が幸いで満たされることなく、墓にも葬られなかったなら、私は言う、死産の子のほうに彼よりはましだ。

4 その子はむなししく生まれて来て、やみの中に去り、その名はやみの中に消される。

5 太陽も見ず、何も知らずに。しかし、この子のほうが彼よりは安らかである。

6 彼が千年の倍も生きても、しあわせな目に会わなければ、兩者とも同じ所に行くのではないか。

7 人の勞苦はみな、自分の口のためである。

8 しかし、その食欲は決して満たされない。

9 知恵ある者は、愚かな者より何がまさっている。人々の前で生き方を知っている貧しい人も、何がまさっている。

10 目が見るところは、心があこがれることにまさる。これもまた、むなししく、風を追うようなものだ。

6

長生きして富を失い裸になる。

最後は死ぬ。

勞苦しむ富はちりにかえり。

13 私は日の下に、痛ましいことがあるのを見た。所有者に守られていた富が、その人に害を加えることだ。

14 その富は不幸な出来事で失われ、子どもが生まれても、自分の手もどには何も無い。

15 母の胎から出て来たときのように、また裸でもとの所に帰る。彼は、自分の勞苦によつて得たものを、何一つ手に携えて行くことができない。

16 これも痛ましいことだ。出て来たときと全く同じようにして去って行く。風のために勞苦し何の益があるだろう。

17 しかし、人は一生、やみの中で食事をする。多くの苦痛、病氣、そして怒り。

18 見よ。私がよいと見たこと、好ましいことは、神がその人に許されるいのちの日の数の間、日の下で骨折するすべての勞苦のうちに、しあわせを見つけて、食べたり飲んだりすることだ。これが人の受ける分なのだ。

19 実に神はすべての人間に富と財宝を与え、これを樂しむことを許し、自分の受ける分を受け、自分の勞苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。

20 こういふ人は、自分の生涯のことをよくよ思わない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。

勞苦しむ富を失い裸になる。ヨブ1:21

・知恵は益とす
◎何だ起こ子が知らずい。

TOV. 良い事

・知識は益とす
◎何だ起こ子が知らずい

7

14 順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること。それは後の事を人にわからせないためである。

13 神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできようか。
12 知識の陰にいるのは、
11 資産を伴う知恵は良い。
10 知恵のある者に争うことはできない。彼は彼よりも力のある者であるかも知られている。彼は多く語れば、それだけむなしさを増す。それは、人にとって何の益になるだろう。
9 死の日は生まれる日にまさる。
8 祝宴の家に行くよりは、
7 喪中の家に行くほうがよい。
6 そこには、すべての人の終わりがあり、生きていく者が
5 それを心に留めるようになるからだ。
4 悲しみは笑いにまさる。
3 顔の曇りによって心は良くなる。
2 知恵ある者の心は喪中の家に向き、
1 愚かな者の心は楽しみの方に向く。
知恵ある者の叱責を聞くのは、
愚かな者の歌を聞くのにまさる。
愚かな者の笑いには、
なべの下のいばらがはじける音に似ている。
これもまた、むなし。
しいたげは知恵ある者を愚かにし、
まいないは心を滅ぼす。
事の終わりは、その初めにまさり、
忍耐は、うぬぼれにまさる。
軽々しく心をいらだててはならない。
いらだちは愚かな者の胸にとどまるから。
10 どうして、昔のほうが今より良かったのか。と言ってはならない。このような問いは、知恵によるのではない。

11 知識の益は、
12 知識の陰にいるのは、
13 知恵がその持ち主を生かすことにある。
14 順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること。それは後の事を人にわからせないためである。

悪の日が良い。

死の日が良い

7

Orisimpk

1:15

◎道理を思いだそうとして見いだせぬ

◎知恵をよみて見きれぬ

正悪

8

1 だれが知恵ある者にふさわしいだろう。
だれが事物の意義を知りえよう。
人の知恵は、その人の顔を輝かし、その顔の固さを和らげる。

28 私はおも捜し求めているが、見いださない。私は千人のうちに、ひとりの男を見いだしたが、そのすべてのうちに、ひとりの女も見いださなかった。
29 私が見いだした次の事だけに目を留めよ。神は人を正しい者に造られたが、人は多くの理屈を捜し求めたのだ。

23 私に、これらのいっさいを知恵によって試み、そして言った。「私は知恵ある者になりたい。」しかし、それは私の遠く及ばないことだった。
24 今あることは、遠くで非常に深い。だれがそれを見きわめることができよう。
25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、捜し求めた。愚かな者の悪行と狂った者の愚かさを学ぼうとした。
26 私は女が死よりも苦々しいことに気がついた。女はわなであり、その心は網、その手はかせである。神に喜ばれる者は女からのがれるが、罪を犯す者は女に捕えられる。
27 見よ。「私は道理を見いだそうとして、一つ一つに当たり、見いだしたことは次のとおりである。」と伝道者は言う。
28 私はおも捜し求めているが、見いださない。私は千人のうちに、ひとりの男を見いだしたが、そのすべてのうちに、ひとりの女も見いださなかった。
29 私が見いだした次の事だけに目を留めよ。神は人を正しい者に造られたが、人は多くの理屈を捜し求めたのだ。

20 この地上には、善を行ない、罪を犯さない正しい人はひとりもないから。
21 人の語ることばにいちいち心を留めてはならない。あなたのしもべがあなたをのろうのを聞かないためだ。
22 あなた自身も他人を何度ものろったことを知っているからだ。
23 私に、これらのいっさいを知恵によって試み、そして言った。「私は知恵ある者になりたい。」しかし、それは私の遠く及ばないことだった。
24 今あることは、遠くで非常に深い。だれがそれを見きわめることができよう。
25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、捜し求めた。愚かな者の悪行と狂った者の愚かさを学ぼうとした。
26 私は女が死よりも苦々しいことに気がついた。女はわなであり、その心は網、その手はかせである。神に喜ばれる者は女からのがれるが、罪を犯す者は女に捕えられる。
27 見よ。「私は道理を見いだそうとして、一つ一つに当たり、見いだしたことは次のとおりである。」と伝道者は言う。
28 私はおも捜し求めているが、見いださない。私は千人のうちに、ひとりの男を見いだしたが、そのすべてのうちに、ひとりの女も見いださなかった。
29 私が見いだした次の事だけに目を留めよ。神は人を正しい者に造られたが、人は多くの理屈を捜し求めたのだ。

15 私はこのむなしい人生において、すべての事を見つけた。正しい人が正しいのに滅び、悪者が悪いのに長生きすることがある。
16 あなたは正しすぎてもならない。知恵がありすぎてはならない。なぜあなたは自分を滅ぼそうとするのか。
17 悪すぎてもいけない。愚かすぎてもいけない。自分の時が来ないのに、なぜ死のうとするのか。
18 一つをつかみ、もう一つを手放さないがよい。神を恐れる者は、この両方を会得している。
19 知恵は町の十人の権力者よりも知恵者を力づける。
20 この地上には、善を行ない、罪を犯さない正しい人はひとりもないから。
21 人の語ることばにいちいち心を留めてはならない。あなたのしもべがあなたをのろうのを聞かないためだ。
22 あなた自身も他人を何度ものろったことを知っているからだ。
23 私に、これらのいっさいを知恵によって試み、そして言った。「私は知恵ある者になりたい。」しかし、それは私の遠く及ばないことだった。
24 今あることは、遠くで非常に深い。だれがそれを見きわめることができよう。
25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、捜し求めた。愚かな者の悪行と狂った者の愚かさを学ぼうとした。
26 私は女が死よりも苦々しいことに気がついた。女はわなであり、その心は網、その手はかせである。神に喜ばれる者は女からのがれるが、罪を犯す者は女に捕えられる。
27 見よ。「私は道理を見いだそうとして、一つ一つに当たり、見いだしたことは次のとおりである。」と伝道者は言う。
28 私はおも捜し求めているが、見いださない。私は千人のうちに、ひとりの男を見いだしたが、そのすべてのうちに、ひとりの女も見いださなかった。
29 私が見いだした次の事だけに目を留めよ。神は人を正しい者に造られたが、人は多くの理屈を捜し求めたのだ。

1:17, 2:12 思い出す

正しさがむなし

○すべしは神のみわざとて

・報いを受えよとしん

○すべしは神のみわざとて

すべしは神のみわざ

悪・正

支配
正しい者が悪

支配
時を求めん

支配

9

9 1とていうのは、私はこのいつさいを心に留め、正しい人も、知恵のある者も、彼らの働きも神の御手の中にあることを確かめたからである。彼らの前にあるすべてのものが愛であるか、憎しみであるか、人にはわからない。

15 私は快樂を賛美する。日の下では、食べて、飲んで、楽しむよりほかに、人にとって良いことはない。これは、日の下で、神が人に与える一生の間に、その労苦に添えてくださるものだ。

16 私は一心に知恵を知り、昼も夜も眠らずに、地上で行なわれる人の仕事を見ようとしたとき、

17 すべては神のみわざであることがわかった。人は日の下で行なわれるみわざを見きわめることはできない。人は労苦して探し求めても、見いだすことはない。知恵ある者が知っていると思っても、見きわめることはできない。

18 悪者にはしあわせがない。その生涯を影のように長くすることはできない。彼らは神を敬わないからだ。19 しかし、むなししいことが地上で行なわれている。悪者の行ないに対する報いを正しい人がその身に受け、正しい人の行ないに対する報いを悪者がその身に受けることがある。これもまた、むなししい、と私は言いた

10 そこで、私は見た。悪者どもが葬られて、行くのを。しかし、正しい行ないの者が、聖なる方の所を去り、そうして、町で忘れられるのを。これもまた、むなししい。11 悪い行ないに対する宣告がすぐ下されないで、人の子らの心は悪を行なう思いで満ちている。12 罪人が、百度悪事を犯しても、長生きしている。しかし私は、神を恐れる者も、神を敬って、しあわせであることを知っている。

6 すべての営みには時とさばきがある。人に降りかかるわざわいが多いからだ。7 何が起るかを知っている者はいない。いつ起るかをだれも告げることはできない。8 風を支配し、風を止めることのできる人はいない。死の目も支配することはできない。この戦いから放免される者はいない。悪は悪の所有者を救いえない。9 私はこのすべてを見て、日の下で行なわれるいつさいのわざ、人が人を支配して、わざわいを与える時に

ついて、私の心を用いた。

3:11

反対の結果

正しい人も神の御手のみわざのうちにある

王の例

10

良い人にもわざわい

正しい者も悪者も

12 しかし、人は自分の時を知らない。悪い網にかかった魚のように、わなにかかった鳥のように、人の子らもまた、わざわいの時が突然彼らを襲うと、それにかかってしまう。

10 あなたの手もとにあるなすべきことはみな、自分の力でしなさい。あなたが行くところとしていようよみには、働いても企ても知恵も知恵もないからだ。

11 私は再び、日の下を見たが、競走は足の早い人のものではなく、戦いは勇士のものではなく、またパンは知恵ある人のものではなく、また富は悟りのある人のものではなく、愛顧は知識のある人のものではないことがわかった。すべての人が時と機会に出会うから

7 さあ、喜んであなたのパンを食べ、愉快にあなたのぶどう酒を飲め。神はすでにあなたの行ないを喜んでおられる。いつもあなたは白い着物を着、頭には油を絶やしてはならない。

6 彼らの愛も憎しみも、ねたみもすでに消えうせ、日の下で行なわれるすべての事において、彼らには、もはや永遠に受ける分はない。

3 同じ結末がすべての人に来るということ、これは日の下で行なわれるすべての事のうちに最も悪い。だから、人の子らの心は悪に満ち、生きていながら、その心には狂気が満ち、それから後、死人のところに行く。

2 すべての事はすべての人に同じように起る。同じ結末が、正しい人にも、悪者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、いけにえをささげる人にも、いけにえをささげない人にも来る。善人にも、罪人にも同様である。誓う者にも、誓うのを恐れる者にも同様である。

4 すべてに生きている者に連なっている者には希望がある。生きている人は死んだ獅子にまよるからである。5 生きている者は自分が死ぬことを知っているが、死んだ者は何も知らない。彼らにはもはや何の報いもなく、彼らの呼び名も忘れられる。

○すべしは神のみわざとて
時と機会に出会う (同じおわり)

・よい人も悪者も

・死人死ら
報いほらぬ

2:14-3:19
○すべしは神のみわざとて
人と同じように起る

知恵のことばは支配する

11

なすけもの

総り知らず

知恵は益

愚者が支配

知恵者の支配

知恵は力

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

10

13 私はまた、日の下で知恵についてこのようなことを見た。それは私にとって大きなことであった。

14 わずかな人々が住む小さな町があった。そこに大王が攻めて来て、これを包囲し、これに対して大きなとりで築いた。

15 ところが、その町に、貧しいひとりの知恵ある者がいて、自分の知恵を用いてその町を解放した。しかし、だれもこの貧しい人を記憶しなかった。

16 私は言う。「知恵は力にまさる。しかし貧しい者の知恵はさげすまれ、彼の言うことも聞かれぬ。」

17 知恵ある者の静かなことは、愚かな者の間の支配者の叫びよりは、よく聞かれる。知恵は武器にまさり、ひとりの罪人は多くの良いことを打ちこわす。

死んだはえは、調合した香油を臭くし、発酵させる。少しの愚かさば、知恵や榮着よりも重い。知恵ある者の心は右に向き、愚かな者の心は左に向く。愚かな者が道を行くとき、思慮に欠けている。——

自分か愚かであることを、みなに知らせる。支配者があなたに向かつて立腹しても、あなたはその場を離れてはならない。冷静は大きな罪を犯さないようにするから。私は、日の下に一つの悪があるのを見た。それは権力者の犯す過失のようなものである。愚かな者が非常に高い位につけられ、富む者が低い席に着けられている。私は奴隸たちが馬に乗り、君主たちが奴隸のように地に歩くのを見た。穴を掘る者はそれに落ち込み、石垣をくずす者は蛇にかまれる。石を切り出す者は石で傷つき、木を割る者は木で危険にさらされる。もし斧が鈍くなったとき、その刃をとがないうと、もっと力がいる。しかし知恵は人を成功させるのに益になる。もし蛇がまじないにからずにかみつくな、それは蛇使いに何の益にもならない。知恵ある者が口にするこはばは優しく、愚かな者のくちびるはその身を滅ぼす。愚かな者が口にするこはばは、愚かなこと、彼が口にするこはばの始まりは、愚かなこと、彼の口の終わりは、みじめな狂気。愚かな者はよくしゃべる。人はこれから起ることを知らない。これから後に起ることをだれが告げることができよう。愚かな者の労苦は、おのれを疲れさせる。彼は町に行く道さえ知らない。

わざわいなことよ。あなたの王が子どもであって、あなたの首長たちが朝から食事をする国は。幸いなことよ。あなたの王が貴族の出であって、あなたの首長たちが酔うためではなく、力をつけるために、定まった時に、食事をする国は。なまけていると天井が落ち、手をこまねいていると雨漏りがする。食事をするのは笑うため。どう酒は人生を楽しませる。金銭はすべての必要に応じる。王をのろおうと、ひそかに思ってはならない。寝室でも富む者をのろってはならない。なぜなら、空の鳥がその声を持ち運び、翼のあるものがそのことを告げるからだ。

知らずい 知ておけ

支配者は知らずい、愚かな者のことばは滅びる

愚かな者が支配するは悪

総り知らず、みわざを知らずい

12

11

3:20-21

さばきの日を知らずい

1 あなたのパンを水の上に投げよ。ずつと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。

2 あなたの受ける分を七人か八人に分けておけ。地上でどんなわざわいが起るか。

3 あなたは知らないのだから。雲が雨で満ちると、それは地上に降り注ぐ。木が南風や北風で倒されると、その木は倒れた場所にそのままにある。風を警戒している人は種を蒔かない。雲を見ている者は刈り入れをしない。

4 あなたは妊婦の胎内の骨々のことと同様、風の道がどのようなかを知らない。そのように、あなたはいつさいを行なわれる神のみわざを知らない。

5 朝のうちにあなたの種を蒔け。夕方方も手を放してはいけない。あなたは、あれか、これか、どこで成功するのか、知らないからだ。二つとも同じようにうまくいくかもわからない。

6 光は快い。太陽を見ることは目のために良い。

7 人は長年生きて、ずつと楽しむがよい。だが、やみの日も数多くあることを忘れてはならない。すべて起ることはみな、むなししい。

8 若い男よ。若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心のおもむくまま、あなたの目の望むままに歩め。しかし、これらすべての事において、あなたは神のさばきを受けることを知っておけ。

9 10 だから、あなたの心から悲しみを除き、あなたの肉体から痛みを取り去れ。若さも、青春も、むなししいからだ。

11 12 あなたは若い日に、あなたの創造者を見よ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

12 太陽と光、月と星が暗くなり、雨の後にまた雨雲がおおう前に。

13 その日には、家を守る者は震え、力のある男たちは身をかため、粉ひき女たちは少なくなつて仕事をやめ、窓からながめている女の目は暗くなる。

14 通りのとびらは閉ざされ、白をひく音も低くなり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみなうなだれる。

15 彼らはまた高い所を恐れ、道でおびえる。アーモンドの花は咲き、いなごはのろる歩き、ふうちようぼくは花を開く。だが、人は永遠の家へと歩いて行き、喚く者たちが通りを歩き回る。

16 こうしてついに、銀のひもは切れ、金の器は打ち砕かれ、水がめは泉のかたわらで砕かれ、滑車が井戸のそばでこわされる。

17 ちりはもとあつた地に帰る、霊はこれを下さつた神に帰る。

若い日にわざわいの日、さばきの日を知らずい

後の日の神のみわざを知らずい